

いっぺいといっぱく Vol.62



市長は長久手をどんなまちにしたいか、そのために何に取り組もうとしているのか。その想いを市長の語り口でお伝えします。みなさんと語り合うように、一緒に未来の長久手のことを考えてみましょう。また、市HP【によぜがもん】もぜひご覧ください。
[市HPのトップページから「によぜがもん」をクリック。]

→ 市長の部屋
Mayor's Room

→ によぜがもん

→ 一平さんへひとこと!

重箱の隅

最近読んだ本に、織田信長が幼少期にアリを観察していたという話がかかれていました。アリというと、高度経済成長期に「日本人は働きアリだ」とからかわれたように、勤勉に働くものの象徴ですが、本の中で信長は、働きアリのうち2割ほどのアリはほとんど働かず、遊んでいる事に気づいたそうです。

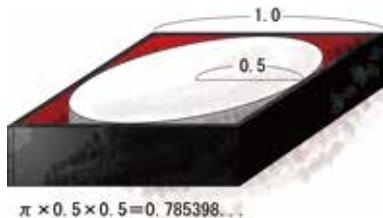
このことは「働きアリの法則」と呼ばれているのですが、アリのうち、懸命に働くアリは2割、働かないアリが2割、残り6割のアリは普通に働いているそうです。面白いのは、働かないアリを集めてグループにすると、そのうちの2割はやはり働かないのですが、6割は普通に働き、2割は懸命に働くように変わるそうです。逆に、懸命に働くアリを集めたグループを作っても、やはりそのうち2割は働かなくなるので、働くか働かないかに関しては個々の特性は関係なく、大局的には同じ比率になるそうです。

それでは、結局どんな組織を作っても2割は働かず無駄が出る、ということでしょうか。私はそうではないと思います。この2割は無駄ではなく、「あそび」なのだと思えます。

もう一つ、面白い話があります。正方形の内側に接する円を描きます。この円の、正方形に対する面積の比率を計算すると、約8割になりますが、この比率は自然界や経済界の様々な場面に出てくるそうです。自然界では、空気中の窒素の比率や、新生児の体の水分の比率、海水の塩分のうち、塩化ナトリウムの比率などが78%だそうです。また、経済界では「パレートの法則」と呼ばれる法則があり、「会社の売上げの8割は、その会社の2割の商品で生み出している」、「売上げの8割は、2割の従業員が生み出している」と言われているそうです。様々な物事は単一ではなく、2割の「あそび」が入っているため、うまく動くのだと思えます。

私はよく、子どもたちに雑木林を残したいと話しています。雑木林は、人工的に植樹で作った杉山などとは違い、様々な種類の木や雑草で成り立っています。単一なもので構成された世界は、一つの弱点を突かただけで全滅してしまいます。そのため、生命は多様性を得るために、あえて非効率な「ゆらぎ」を取り入れて生き残ってきた訳ですが、この進化の歴史で得た必要なゆらぎの比率が、2割なのだと思います。このゆらぎが「あそび」で、機械の連結部などに必要な隙間という意味のあそびでもあり、遊戯という意味のあそびも、全て同じものだと考えています。

細かい事ばかり取り上げて、口うるさく言うことを「重箱の隅をつつく」と言いますが、完璧を求めて、先の正方形の隅までつついてあそびをなくしてしまうと、機械も動きませんし、組織も人も動きません。子育ても、あそびをなくしてしつけや勉強ばかり詰め込むのではなく、のびのびとおおらかに育てるべきだと考えています。私の経験則では、物事は完璧を目指すのではなく、ほどほど、ぼちぼち。具体的には8割にしておく、うまくいくものだと思います。



長久手市安心メール、イベントメールの登録をお願いします

問 安心安全課 ☎56-0611 (記事ID 7067)

安心メールでは、市で把握した事件や不審者などの防犯情報、災害時の避難所の開設状況などの防災情報などを、イベントメールでは市内のイベント情報をメールでお届けします。

【登録方法】

- ① 右側のQRコードを読み取るか、anshin-add@ai.e-msg.jp に空メールを送信する。
- ② 返信メールに従って手続き。URLにアクセスした際に、希望のメールにチェックをいれる。
- ③ 登録完了



※近所で「いつもと違う」と気づいたときはお電話ください

長久手市地域見守り安心ほっとライン

0561-63-5556

24時間
365日受付

↑↑まちの話題↓↓



カリン(花梨/かりん)の実

長久手市文化の家の南側に位置する「野田農公園」内にカリンの樹木があります。カリンは果物と言っても、非常に硬い上、生では食べられません。
(投稿者:ファーストサーブ)

市民記者
ブログはこちら



スマートフォンで広報ながくてを持ち歩こう!

App Store

Google Play

「マチイロ」で検索
▶ダウンロード

